



**子育て真っ最中の保護者の皆さま。夏休みのお子さんとの時間を
どうぞ大切になさってください。**



校長 川崎 俊一郎

この前、進級、入学したと思っていたのに、1学期もあっという間に過ぎようとしています。子供たち一人一人が充実した1学期だったと思います。全ての子供に成長の跡が見られます。どうか、その成長を「1学期頑張ったね。」の言葉を添えて称賛していただきたいと思います。

さて、現代は、保護者も仕事で忙しく、大人も自分のことで精いっぱいと感じることがよくあります。わたしもその中の一人です。

わたしは、学校で水泳の学習が始まる季節になると、いつも思い出すことがあります。それは、父親と水泳の練習をひたすら繰り返した夏のことです。

父親が小学校の教員をしていた関係で、わたしは幼少期を志布志市、屋久島、曾於市岩川で過ごしました。わたしの通っていた岩川小学校には父も勤務しており、長い間、体育の係をしていた教員であり、父は学校でも評判の怖い先生でした。

高学年になったわたしは、今の島間小の子供たちと同じように旧大隅町の水泳記録会に出場することになりました。水泳記録会練習が始まると聞いたわたしは「嫌だなあ。あの怖い父が待っている。何とか練習に行かないで済む方法はないものだろうか。」と考えましたが、そんな方法はあるはずもなく、渋々、練習に行くことになりました。

練習に行くと、怖い顔をした父が「はい、次は100mクロール。」と、100mを何度も何度も泳ぐ練習がありました。学校での記録会練習が終わった後も、町のプールに父に連れられ、そこでも繰り返し繰り返しの泳ぎ込みの練習が待っていました。

最初は嫌で嫌で仕方がなかった水泳の練習でしたが、泳ぎ込みを続けたことで記録もぐんぐん上がり、いつしか自信ももてるようになりました。

記録はたいしたことはなかったと思いますが、記録会での結果は、平泳ぎの50m・100mともに1番でした。家に帰ると父が「人よりも何かで勝ろうとするなら、人よりもちょっとだけでも努力し、それを続けることが大切だよ。」と話してくれました。

当時、小学生であったわたしには父の思いはよく分かりませんでした。今思うと真夏の日中にたくさんの汗をかき、仕事の疲れを癒やし、ゆっくりしたかったであろう父が、仕事が終わった後にまで町のプールに連れて行き、練習を課したのは、きっとわたしに「努力」の大切さを伝えたかったのだと思います。

毎年、学校で水泳学習の季節になると、父と一緒に過ごした時間が、自分が成長する上でいかに大事であったかを感じます。そして、周りは田んぼだらけでトンボやアブが飛び交っていた学校のプールを思い出します。

子供を、自立に向けて一人でできるように仕向けることは親として大切なことです。しかし、親が子供と一緒に何かをできる時期は、長い人生の中でもわずかな期間だと思えます。わずかな期間に子供たちが大人になったときに思い出せる何かをつくれるとよいなとわたしも島間小に子供を預ける一保護者としても思えます。

いよいよ、夏休みがやってきます。小学生の今の時期に、短時間でも子供と一緒に過ごす時間を大切にしたいと思えます。

池のその後

先月号の「島間の風」でプール前の池のことを書きました。読んでくださった保護者・地域の方から多くの情報提供がありました。池のことを語る懐かしげな保護者・地域の方の表情が印象的でした。多くの方の御協力で池に出る水が町水道だと分かりました。池復活へ向けて、一步一步進めていきます。

水泳大会

7月4日(金)、本校のプールにて「水泳大会」を開催しました。当日は晴天に恵まれ、児童たちは日頃の練習の成果を発揮しようと、元気いっぱい競技に臨みました。

1・2年生のフラフープくぐりや水中宝拾いなどの水とふれあう活動、3年生以上の自由形や平泳ぎ、リレーなど、どの種目も白熱したレースが展開され、応援の声はプールサイドに響き渡りました。仲間を応援する姿や最後まであきらめずに泳ぐ姿が多く見られ、子供たちの成長を感じる一日となりました。

保護者の皆様にも応援に駆けつけていただき、温かい拍手と声援をありがとうございました。また、【100mリレー】5・6年生と有志の保護者、教職員による100mリレーは子供たちの記憶に残るものとなったのではないのでしょうか。今後も体力向上とともに、協力する心を育む行事を大切にしていきたいと思います。



【1・2年生の様子】



【3～6年生の様子】



【100mリレー】

救命救急講習

7月4日(金)、保護者の皆様を対象とした「救命救急講習会」を行いました。南種子分遣所から講師の方をお招きし、心肺蘇生法やAEDの使用方法について、実技を交えて丁寧に御指導いただきました。

当日は多くの保護者の皆様に御参加いただき、命を守るための大切な知識と技術を学びました。



【講習を受ける様子】

学校生活の中で万が一の事態が起こった場合に備え、大人が迅速に対応できることの重要性を再確認する機会となりました。

御参加いただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。今後も学校・家庭・地域が連携し、子供たちの安全を守るための取組を続けてまいります。

若い目に掲載されました

6月26日の南日本新聞の朝刊、若い目に3年生の伊熊湊太君の文が掲載されましたので紹介いたします。

「がんばれH2A 伊熊 湊太

ぼくは、4月にうちゅうりゅう学生として、島間小学校にきました。きっかけは、ロケットの打ち上げを見たかったからです。お父さんが車のせつけいをしているので、ぼくも小さいころから、もの作りにきょうみがあります。うちゅうにもきょうみがあって、天文うちゅうけんていの4級をもっています。もうすぐH2Aのラストフライトがあります。じっさいに打ち上げを見るのは、はじめてなので、わくわくしています。お母さんがもうしこんだてんぼう台のちゅうせんも当たっているのととてもラッキーです。さらに最近、ぼくのたん生日があったので、おいわいが二つあるようです。夜の打ち上げは、とてもきれいだと聞いています。じっさいにどのように見えるのか、とても楽しみです。夜おそくの打ち上げだけど、H2Aのさいごを見のがさないぞ。がんばれ、H2A。」

終業式 児童代表の言葉

2年生宮崎楓七さん、4年川脇望叶さんが、一学期の学びや成長を力強く伝えてくれました。

2人の堂々とした姿や、素直で誠実な気持ちが伝わるスピーチに、みんなで大きな拍手を送りました。

2人の言葉は、子供たちにとっても励みとなりました。この夏休み、一人一人が充実した時間を過ごしてほしいと思います。



【宮崎 楓七さん】



【川脇 望叶さん】

終業式での校長先生のお話

1学期の子供たちの頑張りや成長について話しています。地域の皆さんも是非御覧ください。

